

第Ⅳ部門 小京都の魅力に対する観光客の意識実態
—飛騨高山と郡上八幡を例として—

福井工業大学大学院 学生員 ○柏原 康之
福井工業大学 正会員 和田 章仁

1. はじめに

八幡町は岐阜県のほぼ中央部にあり、周りを山々で囲まれ、町の西側を長良川、町中を吉田川が流れており、古い町並みや歴史的な文化財が町全体にあることから、小京都と呼ばれている。そこで、観光客を対象に小京都らしさについてアンケート調査を行い、同じ岐阜県内にある飛騨の小京都と呼ばれている高山市と比較することにより、小京都らしさを演出している景観構成要素を把握するものである。

2. 調査概要

高山は平成11年10月、八幡は平成12年10月に観光客を対象に性別、年齢、居住地、訪問回数、滞在予定時間、小京都らしさ及び小京都らしさを構成している景観要素についてのアンケート調査を行った。サンプル数は高山が250票、八幡が283票である。

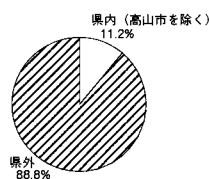
3. 分析結果

(1) 居住地と滞在予定時間

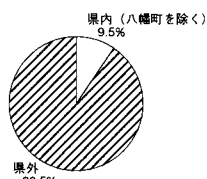
被験者の居住地別では両都市とも県外が約9割を占めており、地域別でみると、高山は「東海・北陸」が約43%、続いて「関東・甲信越」の約34%となっていたが、八幡は、「東海・北陸」が約67%、続いて、「近畿」の約19%となっていた。このことから、高山は八幡に比べて比較的遠い地方から観光客が集まっていると言える(図一1、2、3参照)。また、滞在予定時間では、高山は「1泊2日」が約4割であるのに対し、八幡では「2時間以内」と「半日」とで7割以上占めている。これは、高山では遠い所から訪問することから、滞在時間をゆっくり取っていると思われる。(図一4参照)。

(2) 訪問回数の比較

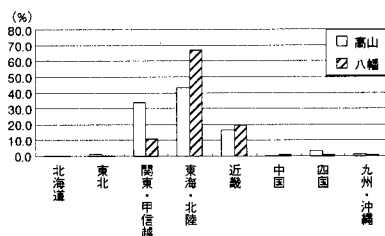
両都市への訪問回数を比較すると、八幡のリピーターが3割強であったのに対して、高山は6割以上をリピーターが占めており、さらに、2回目より3回目の訪問頻度が高いことから、高山の方が八幡より魅力



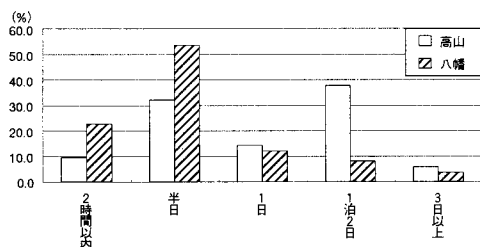
図一1 居住地別構成 (高山市)



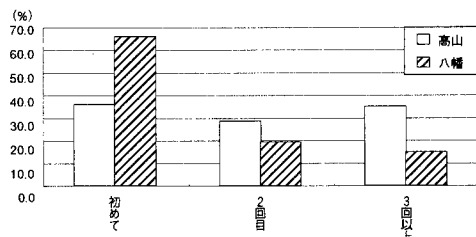
図一2 居住地別構成 (八幡町)



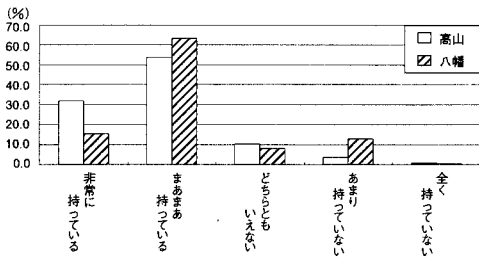
図一3 居住地 (地域別)



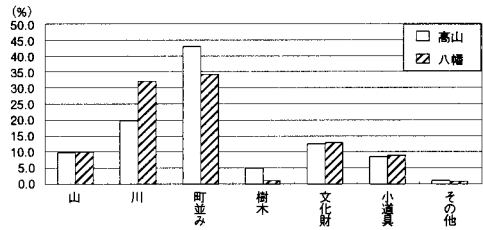
図一4 滞在予定時間



図一5 訪問回数



図一六 小京都らしさの程度



図一七 順位選択による小京都らしさの割合

的な町と傍証できよう(図一五参照)。

(3) 被験者が感じている小京都らしさ

小京都らしさの程度を「非常に持っている」から「全く持っていない」の5項目に分けて質問した。両都市とも「非常に持っている」と「まあまあ持っている」の2つで約8割を占めており、多くの人達が小京都らしさを感じていることがわかった。しかし、「非常に持っている」と答えた人が高山の方が八幡の倍近かったことから、

観光客にとって高山のほうがより小京都らしさを感じていることがわかった(図一六参照)。

(4) 小京都らしさを演出する景観構成要素

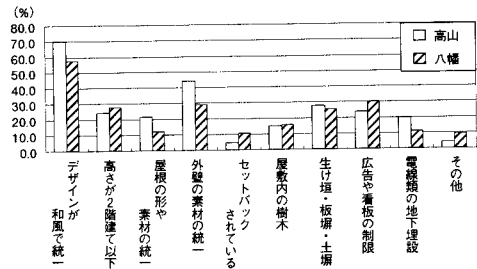
小京都らしさを構成している要素を調べるために、「山」、「川」、「町並み」、「樹木」、「文化財」、「装置・小道具」及び「その他」の7項目を、1位から3位までの順位による回答として質問した。この集計は1番目選択を5ポイント、2番目選択を3ポイント、3番目選択を1ポイントとして順位による重みを持たせた。それぞれの要素の獲得ポイント数を全体ポイント数で除した結果が図一七である。これを見ると、高山は「町並み」の43%が最も多く、続いて「川」の順であった。さらに、「山」と「川」の自然要素を比較すると、「川」の方が「山」よりも多くなっている。一方、八幡では「町並み」が高いものの「川」とほとんど差がない結果となった。以上のことからこの2つの町は小京都らしさを構成する要素として「町並み」と「川」であるものの、その割合は大きく異なっていることがわかる。

(5) 町並みの魅力

小京都らしさを演出している大きな要素が町並みであることから、「町並み」を形成する項目を「建築物のデザインが和風で統一」などの10項目として、被験者による選択を3項目までの設問とした。その結果、高山は「和風」が約7割と最も多く、続いて「外壁」となっている。それに対して八幡は「和風」が約6割と最も多いのは変わらないが、次に「外壁」「広告」「高さ」「生け垣」といった項目がほぼ同率で続いていた。このことから、高山も八幡も建築物に関する項目が町並みの魅力に影響を与えているものの、高山では建築物に関する項目が高く、八幡ではそれ以外の項目も選択されている。(図一八参照)。

4. まとめ

本調査の結果、観光客は両都市とも岐阜県内にとどまらず全国広い範囲にちらばっていたが、高山は遠い地域から集まっており、滞在時間も比較的長く、またリピーターも多いことから、高山に対して小京都らしさを非常に強く感じており、より優れた観光地として認識していることがわかった。さらに、高山の小京都らしさを感じる要素は「町並み」であり、町並みを構成している要素は建築物に重きを置いている。一方、八幡の方は「町並み」と「川」であり、町並みを構成する要素は、建築物に関する項目に加えて他の要素も含まれていることから、小京都らしさに多様性が感じられた。



図一八 町並みの魅力